

令和 8 年 9 月1日

患者様各位

夏のピークを越し、ホッと一息つく季節となりました。皆様、夏の疲れは残っていらっしゃいませんか。



さて、9 月 1 日は「防災の日」です。近年は大規模な自然災害が相次いでおり、日頃の備えの大切さを改めて見直す時期でもあります。

大規模な災害が起きた際、日常の暮らしはもちろんのこと、継続的な治療が必要な医療現場にも大きな影響が及びます。記憶に新しい 2026 年 7 月 28 日の熊本地震では、大量の水が必要な「人工透析」の現場で迅速な連携が行われました。地震直後、広い地域でインフラが停止し、熊本県内では一時最大 13 の施設で透析治療が行えない事態となりましたが、自衛隊等の給水車による緊急支援で段階的に復旧が進められたほか、限られた水を多くの患者さんで分け合えるよう、1 回あたりの透析時間を短縮するなどの工夫により治療が継続されました。

また、治療が困難となった施設から受け入れ可能な病院へのスムーズな案内や、拠点病院での緊急対応が実施されました。あわせて、災害時の透析医療を専門に支援する「JHAT(日本災害時透析医療協働支援チーム)」が現地へ派遣され、人員サポートや設備の復旧活動を行うことで、現場の負担軽減に大きく貢献しました。このようにインフラが途絶える緊急事態においても、医療機関同士の強い連携と支援によって、命をつなぐ透析医療が守られています。

茅ヶ崎セントラルクリニックにおきましても、万が一の際に同様の対応ができるよう、日々近隣の医療機関との連携を図っております。

皆様も、この「防災の日」をきっかけに、ご自身の避難計画や緊急時の連絡体制について今一度確認してみたいはいかがでしょうか。

今後も引き続き、「患者様第一」を心がけ、質の高い医療を提供すべく、診療に遺漏無きよう努めてまいります。何卒よろしくお願いいたします。



医療法人社団茅ヶ崎セントラルクリニック

院長 仙賀 裕